



環境省報道発表

令和4年5月19日（木）

北海道での高病原性鳥インフルエンザ発生 （野鳥国内 104 例目及び家きん国内 25 例目）に伴う 野鳥緊急調査の結果について

<北海道同時発表>

1. 北海道における高病原性鳥インフルエンザの発生（野鳥国内 104 例目及び家きん国内 25 例目）を受けて、北海道が各野鳥監視重点区域内における現地の野鳥の生息状況などの調査を実施しました。
2. それぞれ実施した調査において、野鳥の大量死等の異常は確認されませんでした。

<詳細は次ページ以降>

内容についての問合せ先
環境省自然環境局
野生生物課鳥獣保護管理室
代 表：03-3581-3351
直 通：03-5521-8285
室 長：東岡 礼治（内線 6470）
室長補佐：村上 靖典（内線 6675）
係 長：福田 真（内線 6670）
担 当：宮澤 結有（内線 6477）

■ 野鳥緊急調査の内容

(1) 北海道北見市（野鳥国内 104 例目）

・ 調査期間

令和4年5月14日（土）～5月16日（月）の3日間

（参考）渡り鳥の飛来地等10か所で実施した野鳥緊急調査で観察された鳥類

検査優先種	種数	種類
検査優先種 1	2種	ヒドリガモ、キンクロハジロ
検査優先種 2	3種	マガモ、オナガガモ、オジロワシ
検査優先種 3	5種	カワアイサ、カワウ、タンチョウ、オオセグロカモメ、トビ
合計	10種	

(2) 北海道網走市（家きん国内 25 例目）

・ 調査期間

令和4年5月14日（土）～5月16日（月）の3日間

（参考）渡り鳥の飛来地等10か所で実施した野鳥緊急調査で観察された鳥類

検査優先種	種数	種類
検査優先種 1	2種	ヒドリガモ、キンクロハジロ
検査優先種 2	2種	マガモ、オジロワシ
検査優先種 3	4種	カワウ、タンチョウ、オオセグロカモメ、トビ
合計	8種	

※ 検査優先種：「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」において、感染し死亡しやすい種を中心に設定しているものです（参考情報参照）。

■ 野鳥緊急調査の結果について

北海道における高病原性鳥インフルエンザの発生（野鳥国内104例目及び家きん国内25例目）を受けて、それぞれ指定した野鳥監視重点区域内の渡り鳥の飛来地等において、北海道が生息状況調査、死亡野鳥調査等を実施した結果、野鳥の大量死等の異常は確認されませんでした。

■ 今後の対応

野鳥監視重点区域において、引き続き野鳥の監視を継続します。

【参考情報】

環境省ホームページで高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。

(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/index.html)

「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」

(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/manual/pref_0809.html)

釧路自然環境事務所管内の野鳥監視重点区域調査、国指定鳥獣保護区巡視の結果をホームページで公開し、情報提供しています。

(http://hokkaido.env.go.jp/kushiro/wildlife/bird_flu.html)